

「常呂川下流地区水害タイムライン検討会」第1回検討会

平成30年12月27日に常呂町多目的研修センターにおいて、「常呂川下流地区水害タイムライン検討会 第1回検討会」を開催しました。タイムラインは、地域住民の円滑な避難を図るために必要な行動項目やタイミングを関係機関と連携して検討し、災害が発生する前までに安全な避難を行うための事前防災行動計画を策定するものです。第1回検討会では、防災関係機関が行う防災対応の内容と実施タイミングなどの整理を行いました。

- 開催日時 平成30年12月27日(木) 13:00 ~ 17:00
- 実施場所 北見市常呂町多目的研修センター 1階大ホール(北見市常呂町土佐2番地1)
- 参加機関 北見市、網走開発建設部、網走地方气象台、陸上自衛隊、北海道オホーツク総合振興局、北海道警察、北見地区消防組合、北見市社会福祉協議会・北見市教育委員会、網走バス株式会社、北海道電力株式会社、常呂町農業協同組合、常呂漁業共同組合、JA北海道厚生連常呂厚生病院、常呂町建設業協会、常呂自治区内14町内会 計90名

1. 開会

北見市市市長より「座長、アドバイザー、多数の関係機関・団体のご協力の下に検討会を開催することに感謝申し上げます。今年も西日本豪雨や北海道胆振東部地震等の多くの自然災害によって全国各地で甚大な被害が発生しており、いつ・どこでも災害が発生しうことは明らかです。このような状況の中、関係機関・団体が連携した防災対応をとることの大切さを改めて認識しています。タイムライン防災のテーマである『いつ・だれが・なにを』に着目し、顔の見える関係を構築しながら地域の防災力向上に繋がるタイムライン作りに向けて皆様のご協力をお願いします。」と開会挨拶を受け、関係機関90名が参加し、第1回検討会が行われました。



北見市市市長

2. 災害シナリオ・リスクについて

松尾座長より「タイムライン防災の検討では各々の役割を認識し、行動計画書として取りまとめ、全体で合意することが重要である。住民視点では、災害の危険がありそうな時にどのような準備をして構えるのか、いざという時にどう逃げるのか等を整理することになる。本日のような形でテーブルを囲み、顔の見える関係を構築しながら、それぞれの役割を確認し、それぞれがやるべき行動を明確化することで行動計画書であるタイムラインの取りまとめに向けて一緒に検討を進めて頂きたい。」との挨拶の後、網走開発建設部より「常呂川下流地区におけるタイムラインを検討するための災害シナリオ・リスク」について説明がされました。



松尾座長

3. ワークショップ (議論内容)

松尾座長の進行にて、ワークショップを行いました。事務局からワークショップの進め方の説明を行い、6テーブルに分かれてグループワークを開始しました。ワークショップでは平成30年11月26日に開催された「自治体ワーキング」の議論結果をとりまとめた『常呂川下流地区(常呂自治区)水害タイムライン(素案) 総括表』を題材とし、グループ別に着目すべき論点を設定した上で議論・検討を行いました。

「防災情報・意思決定グループ」では合成機関が行うべき情報の発信、収集及び共有と防災行動に関する意思決定や指示について、「市民安全支援グループ」では確実な安全確保行動(逃げ遅れ防止、要配慮者支援、避難所運営等)を行うための防災行動について、「市民安全行動グループ」では確実な安全確保のために住民や地域が実施すべき防災行動や行政との連携内容について、「地域安全対策グループ」では市民の安全確保行動を支援するための情報提供・避難広報・避難誘導・救助活動を目的とした防災行動について、「生活基盤対策グループ」では住民生活の基盤(ライフライン等)における影響を軽減または早期復旧するための防災行動について、「防災基盤対策グループ」では防災施設や道路等(防災基盤)の浸水被害を軽減する方策と早急復旧ための事前対策について議論・検討を行いました。今回の検討結果は事務局で持ち帰り、整理取りまとめを行った上で、検討会参加機関への意見照会等を行った上で、『常呂川下流地区(常呂自治区)水害タイムライン(第1次案)』(総括表および詳細表)を作成し、第2回検討会での検討素材とする予定です。

常呂川下流地区(常呂自治区)水害タイムライン(素案) 総括表

行動目標	行動項目	行動細目						
		ステージ0	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4	ステージ5	
防災情報の集約	気象・水文情報の収集・伝達 発表情報の受領	平常時 台風や大雨によって北海道へ の影響が発生する可能性がある 生じた場合	台風説明会の情報等で、今後 北見市に災害等の影響が 発生する可能性が生じた場合	大雨警報・洪水警報が発表さ れ、さらに状況が悪化する見 込みの場合	上川沿水位観測所で水防団 待機水位を超過し、さらに水 位上昇が続く見込みの場合	上川沿水位観測所で氾濫注 意水位を超過し、さらに水位 上昇が続く見込みの場合、ま たは 避難判断水位を超過し た場合	上川沿水位観測所で氾濫危 険水位を超過し、さらに水位 上昇が続く見込みの場合	氾濫の発生
		---	-52~18h	-18~10h	-10~5h	-5~2h	-2~0h	0h~
		【行動】気象・水文情報の収集	【行動】気象・水文情報の収集	【行動】気象・水文情報の収集	【行動】気象・水文情報の収集	【行動】気象・水文情報の収集		【行動】気象・水文情報の収集
			【情報】大雨・洪水注意報の発表	【情報】大雨・洪水警報の発表 【情報】常呂川水位予測結果の 関係機関への情報提供	【情報】常呂川水位予測結果の 関係機関への情報提供 【情報】水防警報(待機/準備)の 発表	【情報】常呂川水位予測結果の 関係機関への情報提供 【情報】水防警報(出動/指示)の 発表 【情報】常呂川洪水予報(氾濫注 意情報)の発表 【情報】常呂川洪水予報(氾濫警 戒情報)の発表	【情報】常呂川水位予測結果の 関係機関への情報提供 【情報】常呂川洪水予報(氾濫危 険情報)の発表 【情報】常呂川洪水予報(氾濫発 生情報)の発表	
			【情報】防災気象情報の問い合わせ	【情報】防災気象情報の問い合わせ	【情報】防災気象情報の問い合わせ	【情報】防災気象情報の問い合わせ	【情報】防災気象情報の問い合わせ	【情報】防災気象情報の問い合わせ
			【情報】大雨・台風説明会の開催 案内 【行動】大雨・台風説明会参加に よる気象予測等の収集	【情報】開発局に助言の要請	【情報】開発局に助言の要請	【情報】開発局に助言の要請	【情報】開発局に助言の要請	【情報】開発局に助言の要請
				【情報】水位予測に関する助言	【情報】水位予測に関する助言	【情報】水位予測に関する助言	【情報】水位予測に関する助言	【情報】氾濫予測に関する助言
					【行動】ホトルラインの実施	【行動】ホトルラインの実施	【行動】ホトルラインの実施	

赤字: 大きなトリガーとなり得る行動細目

青字: 事務局追記事項

3. ワークショップ（議論の様子）



＜防災情報・意思決定グループ＞
北見市・教育委員会・気象台・振興局・開発建設部



＜市民安全支援グループ＞
北見市・社会福祉協議会・JA北海道厚生連



＜市民安全行動グループ＞
北見市・消防組合・常呂町内会



＜地域安全支援グループ＞
北見市・消防組合・常呂農協、常呂漁協
陸上自衛隊・北海道警察・常呂町建設業協会



＜生活基盤対策グループ＞
北見市・北海道電力(株)・開発建設部



＜防災基盤対策グループ＞
北見市・網走バス(株)・振興局・開発建設部

4. 講評

本日の検討会全体を通して、アドバイザー、座長からそれぞれ講評を頂きました。

＜渡邊康玄アドバイザー（北見工業大学 副学長（研究、国際、地域連携担当））＞

今日の議論に熱意を感じた。今回は防災基盤対策、生活基盤対策、市民安全行動を中心に聞かせて頂いた。道道7号線は地域の生命線であるが、あるグループでは「どう避難して、どう確認するか」を議論しており、またあるグループでは「自発的に避難して」という議論がされており、今後は各グループ間の議論を有機的に繋いでいくことが重要と感じた。今回は自分たちの行動が他にどう繋がるかを理解できたことが重要であり、今後の議論・検討を通じた連携に発展させていきたい。

＜根本昌宏アドバイザー（日本赤十字北海道看護大学 災害対策教育センター長）＞

市民安全行動、市民安全支援を中心に聞かせて頂いた。タイムラインの作成にあたっては平成28年のリアルな経験を活かしていくことが重要である。真備町においても「まさか」という声が多く、屋根の上で14時間近く過ごされた方もいらっしゃった。次に同様な事態を生まないためにも、どのように情報を出し、受け、活かすかを十分に議論して欲しい。また、一番雨や風が強い状態である可能性が高いステージ3における避難行動に関する議論やグループ間の疑問解消・連携の議論を深めるべきである。なお、水害時には電気・水が止まる可能性があり、特にトイレなどは問題になる。長期に及ぶ避難所生活についても考える必要があり、特に女性に無理をさせない避難所づくり・運営が必要である。

＜松尾一郎座長（東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター客員教授）＞

今日のワークショップでは多くの意見が出され、貴重な議論の積み上げとなった。今後は各防災行動を有機的に繋ぐためのグループ間の協議・調整を行っていくこととなる。特に要配慮者利用施設に関連する行動については、地域と行政が連携に関する議論をさらに深めるべきである。全国の過去の事例を見ると、「命を守る知識」が不足していたり、「今まで何も起きなかった」という考えから高齢者等が避難せずに被災している。タイムラインを策定することにより、地域全体で危機感を共有し、早め早めの対応に繋げて欲しい。



渡邊アドバイザー



根本アドバイザー



松尾座長

5. 閉会

司会から次回の検討会は平成31年2月22日を予定していることが伝えられ、その後、常呂自治区の辻区長から閉会挨拶がありました。辻区長は、「年末のお忙しい中、本日の検討会に参加頂いたことに感謝いたします。タイムラインの検討にあたっては、関係機関や地域が一堂に会し、顔の見える関係を構築していくことが重要であり、今回の熱心な議論を見て心強く感じました。これから作り上げていくタイムラインは地域の命を守るものとなるとともに、次の世代に贈る未来へ繋ぐバトンとなると考えています。今後とも皆様方のご協力をお願いします。」とお話になり、第1回検討会を終了しました。



辻自治区長